

# 概 況

## 概

## 況

## 1. 取扱高

## (1) 年間取扱高

## 総取扱高

平成10年中(1月5日から12月30日、開市日数 275日)の総取扱数量は、715,380 tで前年比 100.0%、微増ながら昭和62年以来11年ぶりに前年を上回り、総取扱金額は、664,950百万円で前年比 96.3%と前年を下回った。

総平均価格は前年に比べ 36円安の 930円となった。取扱数量と平均価格を種別毎にみると、次のとおり。

## 鮮魚

はまち、さばが増加したものの、するめいか、さんま、めじが減少したことから、取扱数量は 188,626 tで前年比 98.1%、平均価格は 11円安の 975円となった。

## 活魚

はまち、かれいが減少したものの、かんぱち、またいが増加し、取扱数量は 15,767 tで前年比 109.9%、平均価格は 1,509円で 273円安となった。

## 貝類

生鮮・冷凍ともに前年を下回り、取扱数量は 54,674 tで前年比 97.5%、平均価格は 21円安の 897円となった。

生鮮貝類では、むきかき、さざえが増加したものの、あか貝、あおやぎが減少した。冷凍貝類では、冷むきかきが増加し、冷ほたて貝が減少した。

## 冷凍魚

えび類が減少したものの、まぐろ類、いか類、さけ・ます類と主要品目が増加したため、取扱数量は 181,681 tで前年比102.8%、平均価格は 79円安の 1,093円となった。

## 淡水魚

生鮮は前年並、冷凍は前年を下回り、取扱数量は 3,055 tで前年比 88.1%、平均価格は 26円高の 1,453円となった。生鮮淡水魚類では、あゆが増加した。冷凍淡水魚類では、冷わかさぎが増加したものの、冷あゆが減少した。

## 海藻類

のりが減少したものの、生わかめ、塩わかめが増加し、取扱数量は 8,060 tで前年比 103.8%、平均価格は 36円高の 442円となった。

## 加工品

塩蔵品類、塩干品類、煮干製品類、練製品類がやや減少し、取扱数量は 263,518 tで前年比 99.6%、平均価格は 24円安の 765円となった。

## (2) 月別取扱高

- 1月 -

## ☆鮮魚

取扱数量	13,589 t (対前年比 102.9%)
平均価格	1,080円 ( " 79円安)

取扱数量では、まぐろ類は、まぐろの国内物が39%減、輸入物が24%増、めじは66%減、きわだの国内物は67%減、輸入物は76%増、めばちの国内物は前年並、輸入物は4%増となり、総じて輸入物の入荷が増加した。まあじは、九州・紀州物が主体で16%増。さばは、九州物が主体で36%増となった。まいわしは、高知・三重・愛媛からの入荷を中心に36%増。するめいかは、シケもあって低調な漁況で、九州・山陰物主体で20%減。はまちは、入荷の最盛期が過

ぎたこともあり、8%減となった。たら類は前年並。あんこうは32%減となった。平均価格では、まぐろ類は、まぐろの国内物が4.3割高、輸入物が2.0割安。めじは5.6割高。めばちの国内物が1.2割安で、輸入物が1.1割高となった。まあじは入荷が増加したことから1.6割安。さばも入荷増から1.8割安と値を下げた。まいわしも2.2割安となった。するめいかは1.8割高。はまちは0.5割安。あんこうは入荷減から4.5割高と高値をつけた。

## ☆活魚

取扱数量	1,117 t (対前年比 97.6%)
平均価格	1,573円 ( " 181円安)

取扱数量では、かんぱちが11%増、またいが6%増、ひらめが2%増となったものの、はまちが26%減、あなごが2%減となり、全体では2%減となった。平均価格では、あなごが1.6割安、またいが1.8割安、ひらめが1.3割安、はまち、かんぱちが0.8割安など全般的に安値となり、全体では1.0割安となった。

## ☆貝類

取扱数量	4,673 t (対前年比 102.1%)
平均価格	886円 ( " 58円安)

&lt;生鮮貝類&gt;

取扱数量では、ほたて貝が8%減、かきとしじみが3%減、あか貝が2%減となったものの、むきかきが24%増、あざりとあおやぎが4%増、むきほたて貝が2%増、はまぐりが1%増となり、類計では3%増となった。平均価格では、ほたて貝が1.5割高、しじみとむきほたて貝が0.5割高となったが、あか貝が2.2割安、むきかきが2.2割安、あざりとあおやぎが0.5割安、あおやぎが0.4割安となり、類計では0.8割安となった。

&lt;冷凍貝類&gt;

取扱数量では、5%減。平均価格では、0.8割高。

## ☆冷凍魚

取扱数量	13,057 t (対前年比 101.1%)
平均価格	1,091円 ( " 55円安)

取扱数量では、まぐろ類は、きわだか26%減、びんなが12%減、印度まぐろが8%減となったものの、主力のめばちが7%増、ほんまぐろが5%増となり、類計では前年並となった。いか類は、するめ(SA)が2%増となったものの、もんこういかは34%減、するめ(国内)が26%減となり、類計では26%減となった。かれい類は56%増。さけ・ます類は、しろさけが29%減となったものの、べにさけが2.2倍増と大幅に増えたことから、類計では39%増となった。えび類は、あかえびが5%増であったが、その他のえびがふるわず類計では19%減となった。ぎんたらは15%減。たこは94%増と大幅に増えた。平均価格では、まぐろ類は、めばちの1.3割安など全般的に安値で、類計でも1.1割安と値を下げた。いか類は、するめいか全般が値を下げたものの、もんこういかは1.3割高で、類計では0.2割高となった。

さけ・ます類は、べにさけ・しろさけともに値を下げ、類計でも1.2割安となった。えび類は2.0割高。さばは2.5割高。たこは大幅増にもかかわらず1.0割安にとどまった。

☆加工品	取扱数量 19,438 t (対前年比 102.2%)
	平均価格 707円 ( " 12円安)

取扱数量では、塩蔵品類は、塩あきさけが58%増、すけこが50%増となり、類計でも8%増となった。塩干品類は、丸干いわしが19%増、開干さんまが12%増、ししゃもと開干さばが10%増となり、全体でも9%増となった。煮干製品類は、煮干いわしが6%増、類計では前年並となった。練製品類は前年並。湯煮品類は7%増となった。平均価格では、塩蔵品類は、いくらが2.4割高、塩あきさけが1.1割高となったものの、塩かずのこが2.5割安、すけこが1.5割安となり、類計では前年並となった。塩干品類は、ししゃもが0.6割高となったものの、そのほかは安値で、全体では0.4割安となった。煮干製品類は0.5割安、練製品類は前年並となった。

— 2月 —

☆鮮魚	取扱数量 13,818 t (対前年比 102.4%)
	平均価格 1,009円 ( " 79円安)

取扱数量では、まぐろ類では、きわだの輸入物が41%増、めばちの輸入物が12%増となったが、めじが60%減、まぐろ・きわだの国内物が53%減となった。まあじは、九州物を主体に3%増。さばは、九州・山陰物が主体だが、漁獲はやや低調で14%減。まいわしは、銚子物が主体で40%増。するめいかは、前年に比べるとやや低調な漁況が続き九州・山陰物を主体に9%減となった。はまちは9%増。かつおは16%増。たら類は10%減となった。平均価格では、まぐろ類は、まぐろの輸入物が1.6割安となったものの、他は全般的に高値となった。まあじは0.8割安。さばは入荷減から2.0割高と値を上げた。まいわしは入荷増から値を下げ2.6割安となった。するめいかは0.3割高。はまちは1.4割安となった。

☆活魚	取扱数量 1,100 t (対前年比 102.9%)
	平均価格 1,478円 ( " 315円安)

取扱数量では、またいが18%増、かんぱちが15%増、あなごが12%増となり、はまちが25%減となった。平均価格では、あなごが2.4割安、またいは2.3割安、はまちが1.2割安、かんぱちが1.0割安となり、全体的に安値となった。

☆貝類	取扱数量 4,685 t (対前年比 99.5%)
	平均価格 800円 ( " 72円安)

<生鮮貝類>

取扱数量では、むきかきが24%増、あさりが2%増、さざえが15%増となったものの、ほたて貝が9%減、しじみが3%減、あおやぎが25%減少した。類計では2%増となった。平均価格では、しじみが1.0割高、ほたて貝が0.

9割高、むきほたて貝が0.4割高となったものの、むきかきが2.9割安、はまぐりが1.2割安、あさりが0.5割安となり、類計では0.9割安となった。

<冷凍貝類>

取扱数量では、18%減。平均価格では、0.5割高。

☆冷凍魚	取扱数量 13,272 t (対前年比 99.7%)
	平均価格 1,035円 ( " 78円安)

取扱数量では、まぐろ類は、きわだが22%減、印度まぐろが11%減となったが、びんなが14.4倍増と激増し、めばちが21%増となったため、類計では16%増となった。いか類は、するめ(国内)が37%増となったものの、もんこういが60%減などから類計では15%減となった。さけ・ます類は、しろさけが12%減となったが、べにさけが23%増となり、類計では7%の増加となった。えび類は、あかえびが23%減となり、類計でも24%減となった。たこは前年並。かれい類は4%増となった。平均価格では、まぐろ類は、びんなが入荷激増から6.7割安など総じて値を下げ、類計でも1.9割安となった。いか類は、もんこういが1.1割高となったものの、するめ(国内)が3.2割安、むきかが0.3割安となり、類計でも0.8割安となった。さけ・ます類は、しろさけが3.0割高、べにさけが0.3割高となったものの、類計は1.4割安となった。かれい類は1.3割安。えび類は2.7割高となった。

☆加工品	取扱数量 19,883 t (対前年比 99.2%)
	平均価格 712円 ( " 14円安)

取扱数量では、塩蔵品類は、塩ぎんさけが91%増、すけこが18%増となったが、塩しろさけが42%減、塩べにさけが19%減、いくらが6%減となり、類計ではほぼ前年並となった。塩干品類は、開干あじが3%減、ししゃもが6%減となり、類計では2%減となった。煮干製品類はしらす干が5%減などから、類計でも4%減となった。練製品類も5%減となった。平均価格では、塩蔵品類は塩ぎんさけが2.2割安、塩しろさけが1.6割安となったものの、いくらが2.9割高、塩べにさけが1.1割高となり、類計では前年並となった。塩干品類は、ししゃもが1.2割高となったものの、開干さんまが1.4割安、開干あじが0.6割安となり、類計でも0.3割安となった。煮干製品類は1.1割安。練製品類は0.3割高となった。

— 3月分 —

☆鮮魚	取扱数量 15,026 t (対前年比 104.0%)
	平均価格 1,069円 ( " 46円安)

取扱数量では、まぐろ類は、まぐろの国内物が、21%減、輸入物は45%増。めばちは国内・輸入物とも17%増。きわだの国内物が19%減。めじは38%減となった。まあじは、昨年は豊漁だったが今年は例年並の水揚げとなり、九州・紀州・房州を主体に入荷し15%減。さばは、九州・紀州等からの入荷で29%増。まいわしは、愛媛・石川を中心に前

年並。するめいかは、九州と豊漁だった山陰を主体に33%増加。はまちは12%増。かつおは、九州物が主体で12%減となった。平均価格では、まぐろ類は、まぐろの輸入物が入荷増から2.4割安、国内物が1.1割安など全体的に値を下げた。まあじは2.9割高。さばは1.3割安。まいわしは3.0割高。するめいかは1.0割安。はまちは1.6割安。かつおは0.4割高となった。

☆活魚

取扱数量	1,342 t (対前年比 108.1%)
平均価格	1,509円 ( " 315円安)

取扱数量では、はまちが24%減少したが、あなごが6%増、かんぱちが14%増、またいが27%増と主要品目が増加した。平均価格では、あなごが2.4割安、かんぱちが1.1割安、またいが2.3割安となり全般に値を下げた。

☆貝類

取扱数量	4,857 t (対前年比 94.7%)
平均価格	832円 ( " 33円安)

<生鮮貝類>

取扱数量では、むきかきが35%増。さざえが18%増、むきほたて貝が4%増となったが、あおやぎが49%減、あさりとはまぐりが4%減となり、類計では3%の減少となった。平均価格では、あおやぎが7.2割高となり、むきかきが1.6割安、さざえが1.8割安、あさりが0.3割安となった。類計では0.3割安となった。

<冷凍貝類>

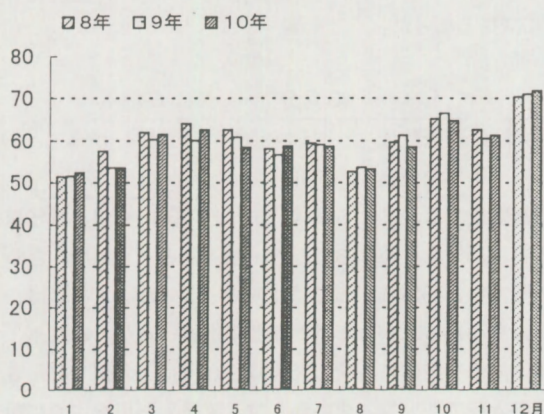
取扱数量は、20%減少。平均価格は、前年並。

☆冷凍魚

取扱数量	16,631 t (対前年比 110.2%)
平均価格	1,038円 ( " 107円安)

取扱数量では、まぐろ類は、生鮮まぐろのシーズンを控えて在庫の消化が促され、主力のめばちが15%増、ほんまぐろも51%増となり、類計でも15%増となった。いか類は、するめ(国内)が、品薄の生鮮の代用としての需要から18%増。もんこういか、加工向筋の買いが入り18%増。さけ・ます類は、しろさけが43%減。高値推移が売れ口に響

図1-1 総取扱数量の動き



いたべにさけが60%の大幅減となったが、チリ産主体のぎんさけが41%増となり、類計では7%の増加。えび類は8%減。さばは3%減。たこは安値安定と連休需要を見込んだ手当てから倍増した。平均価格では、まぐろ類は、めばちが1.9割安など総じて値を下げ、類計で1.8割安となった。いか類は、するめ(国内)が2.9割安となり、類計では0.8割安。さけ・ます類は、しろさけが0.8割、べにさけが1.7割値を上げたが、類計では1.0割安となった。えび類は1.3割高。さばは0.3割高。たこは倍増から1.9割安となった。

☆加工品

取扱数量	22,664 t (対前年比 96.9%)
平均価格	755円 ( " 12円安)

取扱数量では、塩蔵品類は、塩ぎんさけが倍増したが、塩あきさけ、塩べにさけがそれぞれ45%、40%減少し、類計では7%減となった。塩干品類は、開干さんまが13%増加したが、類計では前年並となった。煮干製品類は、煮干いわしが倍増、しらす干も24%増加したが、類計では3%減となった。練製品類は5%減。湯煮品類は11%減となった。平均価格では、塩蔵品類は、塩べにさけが1.3割値を上げたが、塩ぎんさけが2.3割、塩あきさけが0.9割安となり、類計では前年並。塩干品類は、開干さんまが1.3割安、類計では0.4割安となった。煮干製品類は、煮干いわしが2.2割安、しらす干が0.9割安、類計では0.6割安となった。湯煮品類は1.3割高。練製品類は、かまぼこが0.4割高、類計では0.2割高となった。

- 4月分 -

☆鮮魚

取扱数量	15,029 t (対前年比 104.7%)
平均価格	1,004円 ( " 80円安)

取扱数量では、まぐろ類は、きわだの輸入物が37%減、まぐろの国内物が16%減となったが、めばちが国内物が82%、輸入物も6%増加し、めじも44%増加した。まあじは、九州方面の漁獲は上向いたものの、山陰・房州からの入荷が減少し、2%減。さばは、各産地での水揚げが好調で26

図1-2 総平均価格の動き

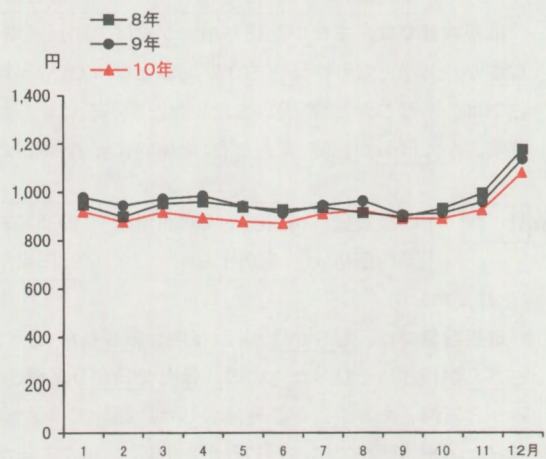
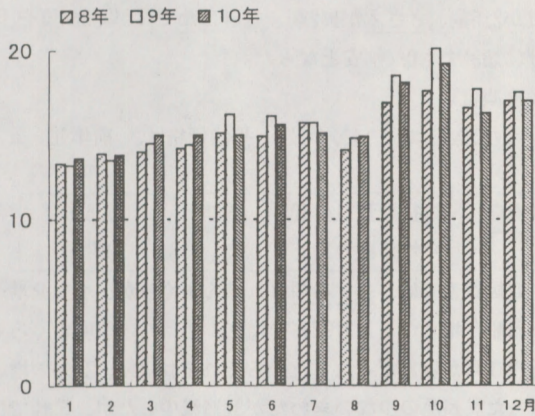


図 2-1 鮮魚取扱数量の動き



％増となった。まいわしは、愛媛・銚子・石川が中心で8％増。するめいかは、日本海中部以西が主体だが、各産地とも水揚げが低調なため、32％減となった。はまちは3％増。かつおは、各産地の水揚げは低調だが近海物主体の入荷で2％減にとどまった。平均価格では、まぐろ類は、入荷が少なかつたまぐろの国内物が1.6割高、めばちの輸入物が0.4割高。入荷の多かつためばちの国内物は、2.5割値を下げた。きわだの輸入物が1.6割安。まあじは1.0割高。さばは入荷増から1.9割安。まいわしは0.3割安。するめいかは入荷減のため4.1割高。はまちは1.6割安。かつおは0.6割高となった。

☆活魚 取扱数量 1,372 t (対前年比 108.7%)  
平均価格 1,420円 ( " 360円安)

取扱数量では、またいが27％増、かんぱちが25％増、ひらめが23％増、あなごが7％増となり、はまちが27％減で、全体では9％とやや増加した。平均価格では、はまちが2.2割安、あなごが2.8割安、かんぱちが1.4割安、またいとひらめが2.4割安など総じて安値傾向で、全体では2.0割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,556 t (対前年比 94.6%)  
平均価格 856円 ( " 16円安)

<生鮮貝類>

取扱数量では、むきほたて貝が11％増、さざえが25％増、しじみが8％増となり、あおやぎが22％減、あか貝が9％減、あさがり4％減少して、類計では2％減となった。平均価格では、あおやぎが2.9割高、はまぐりが1.1割高となり、むきあか貝が3.9割安、さざえが1.4割安となり、類計では、0.3割安となった。

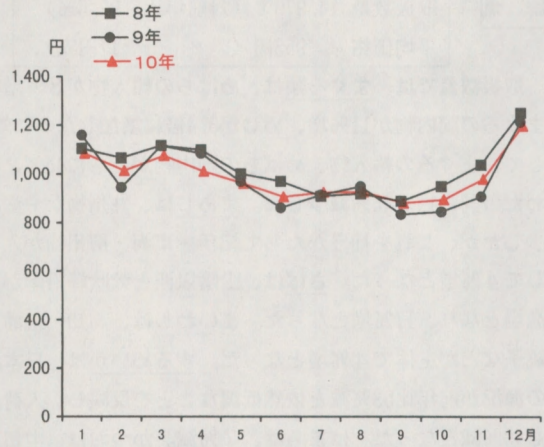
<冷凍貝類>

取扱数量では、26％減。平均価格では、1.1割高。

☆冷凍魚 取扱数量 17,273 t (対前年比 108.3%)  
平均価格 1,042円 ( " 140円安)

取扱数量では、まぐろ類は、主力のめばちが豊富な供給

図 2-2 鮮魚平均価格の動き



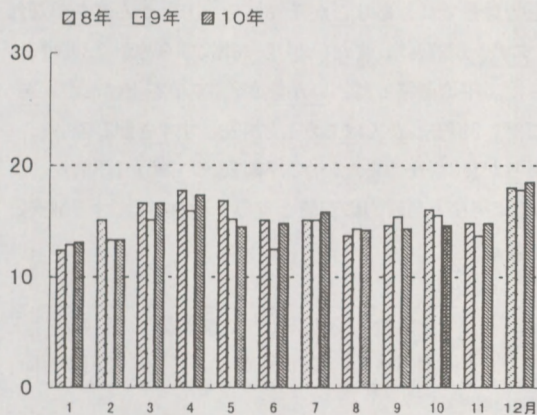
を受け12％増と10ヶ月連続して前年を上回った。印度まぐろも21％増となり、類計では15％増となった。いか類は、するめ(国内)が、出回りが少なく高値の生鮮物の代替として、36％増加した。もんこういかは20％減となり、類計では7％減となった。さけ・ます類は、主力のぎんさけが41％増となり、在庫の少ないべにさけが31％減となったものの、類計では28％の増。えび類は、あかえびが4％増えたものの、主力のインドネシア産の減少から類計も22％の減。さばは9％の増。たこは22％増。ぎんだらは13％減となった。平均価格では、まぐろ類は、供給過多と景気の低迷にともない、印度まぐろが2.0割安、めばちが1.2割安となり、類計では1.6割安となった。いか類は、するめ(国内)が2.7割安、もんこういか0.5割安など類計でも1.6割安となった。さけ・ます類は0.7割安。えび類は1.1割高。さばは1.2割安。ぎんだらは1.4割安。たこは1.5割安となった。

☆加工品 取扱数量 23,345 t (対前年比 102.8%)  
平均価格 733円 ( " 44円安)

取扱数量では、塩蔵品類は、在庫品の整理売りが急がれた塩ぎんさけが2.5倍に増加、いくらも24％増となったものの、荷動き不振の塩あきさけが43％減、塩べにさけが34％減となった。類計では前年並。塩干品類は、開干さんまが5％増となり、開干あじが11％減、開干さばが3％減少したが、類計では7％増となった。煮干製品類は、煮干いわしが59％増、しらす干が31％増となり、類計でも30％の増加となった。練製品類は7％減。素干品類と湯煮品類は10％の減となった。平均価格では、塩蔵品類は、いくら4.4割高。塩あきさけ、しろさけ、ぎんさけがそれぞれ4.5割、1.9割、2.9割値を下げたが、類計では0.5割高となった。塩干製品類は、開干さんまが1.7割安、開干あじが0.5割安となり、類計では1.6割安となった。煮干製品類は、入荷増の煮干いわしが3.1割安、しらす干が2.1割安など類計でも2.3割安となった。湯煮品類は前年並。練製品類は0.2割高となった。



図4-1 冷凍魚取扱数量の動き



減で、類計でも10%減となった。煮干製品類は、煮干いわしが50%増、しらす干が5%減となり、類計では9%減となった。練製品類は5%減、湯煮品類は18%減となった。平均価格では、塩蔵品類は、塩べにさけが1.5割高、いくらが4.8割高となったが、塩あきさけが4.0割安、塩しろさけが3.9割安、塩ぎんさけが1.6割安となり、類計では0.6割安となった。塩干品類は、開干さんまが1.7割安、開干あじが0.5割安、類計では0.6割安となった。煮干製品類は、入荷増の煮干いわしが3.0割安、しらす干が2.3割安などから類計でも2.1割安となった。練製品類は0.2割安。湯煮品類は、煮たこが1.0割安だったが、類計では0.3割高となった。

- 6月 -

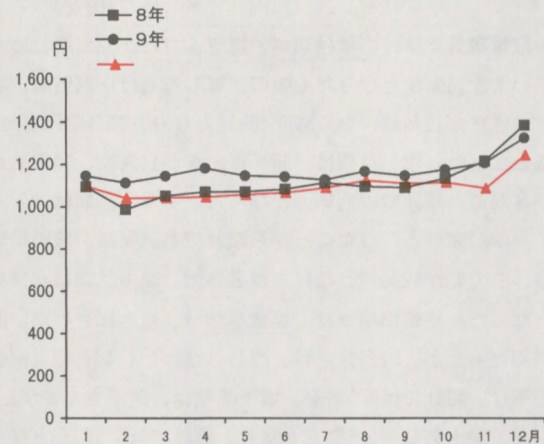
☆鮮魚	取扱数量 15,584 t (対前年比 96.6%)
	平均価格 897円 ( " 35円高)

取扱数量では、まぐろ類は、きわだの国内物が41%増、輸入物が6%増、めばちの輸入物は5%増、国内物は36%減、めじは昨年の入荷が多かったため67%の大幅減となった。まあじは、山陰・九州物主体に8%増。さばは、近海物主体の入荷で45%増。まいわしは、銚子・三浦を主体に10%増。するめいかは、日本海中部・青森・北海道を中心に入荷したが、主要産地での水揚量が85%減という不漁の影響を受け、46%減となった。はまちは37%増。かつおは、三陸・常磐の巻網物主体の入荷で17%減。またい(養殖)は38%の増となった。平均価格では、まぐろ類は、めばちの輸入物が1.0割高、めじは5.7割高、まぐろの国内物は1.0割安、輸入物は0.6割安となった。まあじは0.8割安。さばは、入荷が増加したため2.0割安。まいわしは2.5割高。入荷の少ないするめいかは6.9割高。はまちは2.4割安。またい(養殖)は2.8割安。かつおは1.3割高となった。

☆活魚	取扱数量 1,382 t (対前年比 115.4%)
	平均価格 1,413円 ( " 271円安)

取扱数量では、かんぱちが24%増、ひらめが33%増、またいが38%増、すずきが14%の増加となった。平均価格で

図4-2 冷凍魚平均価格の動き



は、あなごが1.6割安、かんぱちが1.4割安、ひらめが1.9割安、またいが2.7割安となり、全般的に安値となった。

☆貝類	取扱数量 4,284 t (対前年比 102.4%)
	平均価格 868円 ( " 3円高)

&lt;生鮮貝類&gt;

取扱数量では、さざえが17%増、はまぐり14%増、むきほたて貝が11%増、しじみが7%増加となり、あさが10%減、あおやぎが12%減少し、類計では前年並となった。平均価格では、はまぐりが1.3割高、あさが0.5割値を上げ、むきあか貝が2.1割安値となった。

&lt;冷凍貝類&gt;

取扱数量は、35%増。平均価格は、1.0割安。

☆冷凍魚	取扱数量 14,781 t (対前年比 117.9%)
	平均価格 1,063円 ( " 79円安)

取扱数量では、まぐろ類は、ほんまぐろが75%増、めばちが22%増、印度まぐろが28%増となったが、きわだか40%減となり、類計では25%の増となった。いか類は、入荷の少ない生鮮の代替として荷動きの好調な、するめ(国内)が73%増となったが、売れ行き不振のもんこういか39%減となり、類計では2%減となった。さけ・ます類は、品薄のしろさけ、べにさけがそれぞれ43%、28%減少した一方、チリからの輸入が多くべにさけから需要の移ったぎんさけが2.6倍と大きく膨らんだ。類計でも58%増となった。かれない類は16%増。えび類は22%増。さばは31%増。たこは4%減。ぎんたらも15%減となった。平均価格では、入荷が増えたまぐろ類は、ほんまぐろが2.9割安、めばちが2.2割安、印度まぐろが1.8割安と総じて安く、類計でも1.8割安となった。いか類は、するめ(国内)が2.5割安となり、類計でも0.6割安となった。さけ・ます類は、べにさけが3.3割高、しろさけが4.2割高となり、類計でも0.7割高となった。かれない類は0.4割安。えび類は1.1割高。さばは1.4割安。たこは1.1割安。ぎんたらも1.3割安となった。

☆加工品

取扱数量	21,591 t (対前年比 100.7%)
平均価格	721円 ( " 61円安)

取扱数量では、塩蔵品類は、塩ぎんさけが58%増、めんたいこが14%増となったものの、塩しろさけが24%減、塩べにさけが19%減、いくらが40%減となり、類計では2%減となった。塩干品類は、開干さんまが11%増、開干あじが8%減、類計では前年並となった。煮干製品類は、しらす干が47%減となったことから類計でも34%減。練製品類は、ちくわが12%増、類計では3%増。湯煮品類は6%減となった。平均価格では、塩蔵品類は、塩べにさけが3.0割高だったが、塩あきさけ、塩しろさけが4.4割、3.1割値を下げ、類計では0.9割安。塩干品類は、開干さんまが2.0割安、開干あじが0.5割安となり、類計では0.5割安となった。煮干製品類は、煮干いわしが2.3割安となり、類計では0.9割安となった。練製品類は、前年並。湯煮品類は、0.4割高となった。

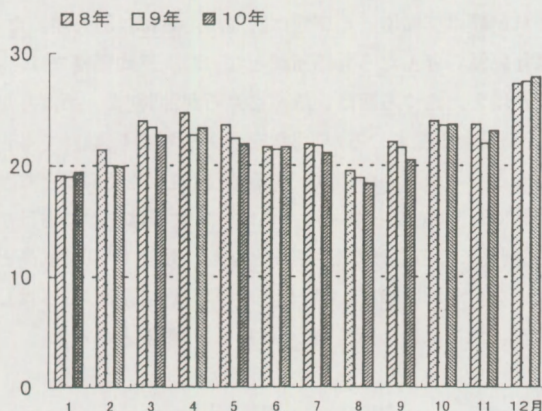
— 7月 —

☆鮮魚

取扱数量	15,064 t (対前年比 95.9%)
平均価格	914円 ( " 1円安)

取扱数量では、まぐろ類は、まぐろの国内物が53%減、輸入物が5%減、めじが60%減、きわだの国内物が53%減、輸入物は13%減、めばちの国内物は58%減、輸入物は25%増となり、類計では30%減となった。まあじは、九州・山陰物が主体で10%増。さばは、近海物(神奈川)が主体で69%増となった。まいわしは、近海物主体で24%減。するめいかは、青森・北海道物主体の入荷で33%減。はまちは、30%増となった。かれい類は16%減。またい(養殖)は、39%増となった。平均価格では、まぐろ類は、まぐろの国内物が2.1割高、輸入物が1.4割安。めじは6.2割高。めばちは国内物が5.2割高で、輸入物が1.2割安となった。まあじは、1.8割安。さばも入荷増から3.4割安と値を下げた。まいわしは6.1割高。するめいかも5.5割高と値を上げた。はまちは2.7割安。またい(養殖)は2.8割安。

図5-1 加工品取扱数量の動き



☆活魚

取扱数量	1,363 t (対前年比 110.8%)
平均価格	1,512円 ( " 312円安)

取扱数量では、あなごが7%減となり、かんぱちが20%増、すずぎが37%増、またいが27%増、ひらめが13%増となった。平均価格では、いか類が2.3割値を上げたが、あなごが1.0割安、かんぱちが1.2割安、すずぎが3.0割安、はまちが1.8割安、またいが2.6割安、ひらめが1.3割安、たこが3.2割など全般的に安値となり、全体では、1.7割安となった。

☆貝類

取扱数量	3,916 t (対前年比 97.4%)
平均価格	910円 ( " 33円安)

<生鮮貝類>

取扱数量では、しじみとはまぐりが7%増、さざえが8%増となったが、ほたて貝が11%減、あおやぎが17%減、あか貝が6%減となり、類計では4%減となった。平均価格では、はまぐりが1.1割高、あさりが0.4割高となったが、あか貝が2.2割安、あおやぎが0.6割安となり、類計では0.3割安となった。

<冷凍貝類>

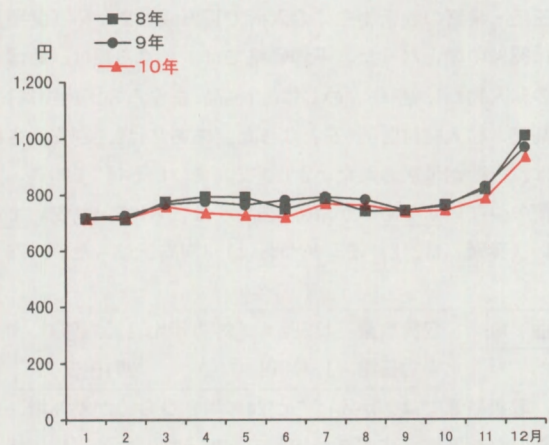
取扱数量は、9%増。平均価格は、0.9割安。

☆冷凍魚

取扱数量	15,845 t (対前年比 104.6%)
平均価格	1,087円 ( " 41円安)

取扱数量では、まぐろ類は、主力のめばちが16%増、ほんまぐろが34%増、印度まぐろが20%増となり、きわだが29%減となったが、類計では16%増となった。いか類は、するめ(国内)が、高値推移の生鮮物の代替として62%増となったものの、もんこういかが27%減となり、類計では前年並となった。かれい類は、主力のあさばかれいが92%増となり、類計でも57%増。さけ・ます類は、しろさけが46%減、べにさけが44%減となったが、その他さけの増加で、類計では7%の減少にとどまった。えび類は、あかえびが5%減、類計では前年並となった。ぎんたらは8%増。さばが17%減。たこは前年並だった。平均価格では、まぐろ類は、めばち、ほんまぐろの2.1割安など全般的に安値で、

図5-2 加工品平均価格の動き



類計では1.7割安と値を下げた。いか類は、するめいか（国内）が2.3割値を下げ、類計では0.3割安となった。さけ・ます類は、べにさけが4.0割高、しろさけも1.7割高と値を上げ、類計では1.2割高となった。えび類は1.4割高。さばは0.6割高。たこは0.4割安となった。

☆加工品	取扱数量 21,135 t (対前年比 96.7%)
	平均価格 770円 ( " 23円安)

取扱数量では、塩蔵品類は、塩しろさけが26%増、塩かずのこが8倍と大幅に増加したが、塩あきさけが38%減、塩べにさけが33%減、すじこが44%減、いくらが60%減となり、類計でも6%減となった。塩干品類は、開干あじが9%減、開干さんまが8%増となり、類計では5%減となった。煮干製品類は、煮干いわしが17%減、しらす干が10%減となり、類計でも11%減となった。練製品類は、ほぼ前年並。湯煮品類は8%減となった。平均価格では、塩蔵品類は、いくらが4.9割高、塩べにさけが3.9割高となったものの、塩あきさけが5.4割安、塩しろさけが1.8割安、塩かずのこが4.7割安となったが、類計ではほぼ前年並となった。塩干品類は、開干さんまが1.9割安など全体に安値で、類計でも0.5割安となった。煮干製品類と練製品類は前年並となった。

- 8月 -

☆鮮魚	取扱数量 14,890 t (対前年比 100.5%)
	平均価格 915円 ( " 35円安)

取扱数量では、まぐろ類では、まぐろの国内物が56%増、めばちの輸入物が22%増となったが、めじが79%減、きわだとめばちの国内物がそれぞれ55%、33%減となった。まあじは、九州物を主体に13%増。さばは、八戸・三陸及び近海物が主体で、15%増。まいわしは、近海物が主体で入荷したが13%減。するめいかは、北海道・青森物を主体に6%減。はまちは54%増。かつおは、三陸物主体に39%増。さんまは、魚群の南下が遅れたため、北海道からの入荷主体で24%減。またい(養殖)は34%増となった。平均価格では、まぐろ類は、きわだの国内物が2.5割高、めじが7.7割高、めばちの輸入物が1.7割安、まぐろの輸入物が2.4割安となった。まあじは2.0割安。さばは1.2割安。まいわしは入荷減から値を上げ4.2割高となった。するめいかは1.3割高。はまちは3.5割安。かつおとまたい(養殖)は2.7割安となった。

☆活魚	取扱数量 1,207 t (対前年比 111.9%)
	平均価格 1,649円 ( " 200円安)

取扱数量では、またいが31%増、かんぱちが26%増、すずきが20%増となり、あなごが9%減となった。平均価格では、あなごが1.7割高のほか、またいが2.5割安、すずきが2.2割安など、全体的に安値となった。

☆貝類	取扱数量 3,444 t (対前年比 94.9%)
	平均価格 949円 ( " 5円高)

<生鮮貝類>

取扱数量では、はまぐりが25%増、さざえとあおやぎが6%増となったものの、あさりとあか貝が12%減、ほたて貝が11%減となり、類計では5%減となった。平均価格では、あさりが0.9割高、ほたて貝が0.3割高、あおやぎが1.3割安となり、類計ではほぼ前年並となった。

<冷凍貝類>

取扱数量では、5%減。平均価格では、0.4割高。

☆冷凍魚	取扱数量 14,200 t (対前年比 99.5%)
	平均価格 1,122円 ( " 45円安)

取扱数量では、まぐろ類は、きわだか42%減となったが、ほんまぐろが34%増、印度まぐろが22%増、主力のめばちが7%増となったため、類計では9%増となった。いか類は、するめ(国内)が20%増となったものの、もんこういかか58%減となり、類計では23%減となった。さけ・ます類は、しろさけが14%減少したが、主力のぎんさけが10%増、べにさけが4%増となり、類計では11%の増となった。えび類は8%減となった。たこは6%減。かれい類は5%増となった。平均価格では、まぐろ類はめばちが2.1割安、ほんまぐろが2.0割安、印度まぐろが1.8割安となり、類計でも1.5割安となった。いか類はもんこういかか1.2割高となったものの、するめいか(国内)が2.1割安となり、全体では0.3割安となった。さけ・ます類は、べにさけが4.4割、ぎんさけが1.4割それぞれ値を上げ、類計でも2.0割高となった。えび類は1.1割高となった。ぎんだらは1.4割安。さばは1.3割安となった。

☆加工品	取扱数量 18,445 t (対前年比 97.5%)
	平均価格 766円 ( " 17円安)

取扱数量では、塩蔵品類は、塩しろさけが38%増、めんたいこが10%増となったが、塩あきさけが38%減、塩べにさけが32%減、いくらが17%減となり、全体では8%減となった。塩干品類は、開干さんまが13%増、ししゃもが14%増となったが、開干あじが11%減少し、類計では6%減となった。煮干製品類は、しらす干が27%増、煮干いわしが15%増となり、類計でも19%増となった。練製品類は6%減となった。平均価格では、塩蔵品類は塩あきさけが4.5割安、塩しろさけが2.2割安となったものの、いくらが3.8割高、塩べにさけが3.0割高となり、類計では前年並となった。塩干品類は、開干さんまが1.7割安、丸干いわしが1.1割安となり、類計でも0.5割安となった。煮干製品類は、煮干いわしが2.8割安となり、類計では0.8割安となった。練製品類は前年並。

- 9月分 -

☆鮮魚	取扱数量 18,097 t (対前年比 97.6%)
	平均価格 868円 ( " 33円高)

取扱数量では、まぐろ類は、まぐろの国内物が45%減、めばちの国内物が14%減となった。めじは、前年が大量入荷だったこともあり65%減。まあじは、九州を中心とした関西方面の中型を主体に入荷し7%増。さばは、三陸・八戸物主体の入荷で48%増。まいわしは、鮫子など近海物を中心に前年並。するめいかは、北海道・青森物主体の入荷で18%減。はまちは2.4倍と大幅に増加。かつおは、三陸・常磐物が主体で26%増。さんまは北海道・三陸物主体の入荷で14%減。またい(養殖)は43%増となった。平均価格では、まぐろ類は、まぐろの国内物が3.3割高、めじが4.4割高、きわだの国内物が3.6割高となったが、めばちの国内物が0.8割安となった。入荷増のさばは1.6割安、はまちも3.5割値を下げた。まあじは0.4割安。まいわしは1.0割安。かつおは1.0割安。またい(養殖)は2.7割安となった。入荷減のするめいかが4.0割高、さんまが5.8割高となった。

☆活魚	取扱数量 1,191 t (対前年比 117.5%)
	平均価格 1,693円 ( " 294円安)

取扱数量では、あなごが15%増、かんぱちが22%増、はまちが20%増、またいが26%増と主要品目が増加した。平均価格では、あなごが1.0割安、かんぱちが1.1割安、はまちが2.2割安、またいが2.6割安となり、全般に値を下げた。

☆貝類	取扱数量 3,589 t (対前年比 94.7%)
	平均価格 943円 ( " 8円安)

<生鮮貝類>

取扱数量では、あさりとさざえが9%増、はまぐりが7%増となった。ほたて貝が14%減、むきほたて貝が9%減となり、類計では3%減となった。平均価格では、はまぐりが0.8割高、ほたて貝が0.7割高となり、あか貝が0.9割安、あおやぎが1.4割安、類計では前年並となった。

<冷凍貝類>

取扱数量は、16%減。平均価格は、ほぼ前年並。

☆冷凍魚	取扱数量 14,250 t (対前年比 92.6%)
	平均価格 1,108円 ( " 39円安)

取扱数量では、まぐろ類は、主力のめばちが5%増、ほんまぐろが42%増、印度まぐろも4%増となったが、市場外流通の多いきわだが52%減となり、類計では前年並となった。いか類は、するめ(国内)が8%減、もんこういかが10%増。さけ・ます類は、ロシア産が大量に出回ったしろさけが72%増となり、アラスカ産の供給減などからべにさけが12%減少し、類計では2%の増となった。荷動きが低調だったえび類は21%減。ぎんだらは33%減。たこは13%減となった。平均価格では、まぐろ類は、めばちが2.0割安、印度まぐろが1.4割安と全般にやや値を下げ、類計で1.1割安となった。いか類は、するめ(国内)が0.5割安、むきいかが0.5割高となり、類計ではほぼ前年並。さけ・ます類は、しろさけが5.7割、べにさけが4.8割値を上げ、類計でも2.0割高となった。えび類は0.7割高。さばは0.7

割安、ぎんだらは1.8割安となった。

☆加工品	取扱数量 20,510 t (対前年比 94.9%)
	平均価格 743円 ( " 2円安)

取扱数量では、塩蔵品類は、塩あきさけが不漁のため、64%の大幅な減少となり、塩べにさけも39%減となった。塩しろさけが20%増、塩ぎんさけが15%増加したが、類計では22%減となった。塩干品類は、開干さんまが22%増、ししゃもが10%増、開干あじが10%減となり、類計では7%減となった。煮干製品類は、煮干いわしが31%減、しらす干が10%増となり、類計では前年並となった。素干品類は、干するめが43%減となり、類計でも24%減。湯煮品類は9%減となった。平均価格では、塩蔵品類は、塩べにさけが3.7割、いくらが2.3割値を上げたが、塩しろさけが2.2割安、入荷の少なかつた塩あきさけも0.6割安となり、類計では1.5割高。塩干品類は、開干さんまが1.3割安、類計では前年並となった。煮干製品類は、煮干いわしが2.2割安、しらす干が1.2割となり、類計では0.7割安。素干品類は、干するめが5.2割高となり、類計でも2.6割値を上げた。

— 10月分 —

☆鮮魚	取扱数量 19,224 t (対前年比 95.7%)
	平均価格 881円 ( " 36円高)

取扱数量では、まぐろ類は、きわだの国内物が5倍に増加、輸入物も26%増。まぐろの輸入物が14%増、国内物は、前年の入荷が多かつたため68%減となったが、量的には例年並の入荷。めじは86%減となった。まあじは、九州・山陰・紀州からの入荷で前年並。さばは、三陸・八戸物主体に22%増となった。まいわしは、前半は近海、後半は三陸物を主体に入荷したが32%減。するめいかは、青森・北海道物主体に26%減となった。はまちは81%増。かつおは、三陸物主体の入荷で9%増。さんまは、三陸・北海道物主体の入荷で14%減となった。平均価格では、まぐろ類は、まぐろの国内物が0.4割高、輸入物が0.9割高、めじが4.4割高となり、めばちの輸入物が0.6割安、入荷の多かつたきわだの国内物は、2.1割値を下げた。まあじは2.4割高。入荷増のさばは1.3割安。まいわしは6.0割高。するめいかは3.4割高。はまちは2.5割安。さんまは7.1割高となった。

☆活魚	取扱数量 1,298 t (対前年比 110.3%)
	平均価格 1,656円 ( " 162円安)

取扱数量では、またいが20%増、かんぱちが34%増、たこが62%増となり、あなごが10%減、ひらめが15%減となった。平均価格では、あなごが1.0割高、ひらめが1.3割高となったが、かんぱちが1.2割安、またいが2.3割安、たこが3.4割安となり、全体では0.9割安となった。

☆貝類	取扱数量 5,132 t (対前年比 97.7%)
	平均価格 931円 ( " 6円安)

<生鮮貝類>

取扱数量では、はまぐりが18%増、むきかきが15%増となり、あさりとはたてが9%減、かきが6%減、あおやぎが14%減となった。類計では3%減。平均価格では、あさりが1.1割高となったが、あおやぎとむきかきが0.5割安となり、類計ではほぼ前年並となった。

<冷凍貝類>

取扱数量は、2%増、平均価格は、0.7割安。

☆冷凍魚

取扱数量	14,572 t (対前年比 93.9%)
平均価格	1,113円 ( " 62円安)

取扱数量では、まぐろ類は、ほんまぐろが37%増、印度まぐろも7%増、きわだが61%減となり、類計では2%の減となった。いか類は、するめ (国内) が、不漁の生鮮物の代替として倍増した。もんこういかも11%増となり、類計では9%増となった。さけ・ます類は、しろさけ、べにさけ、ぎんさけともに荷動き少なく、順に26%、40%、23%減となった。類計では13%の減。えび類は、あかえびが10%減、主力のインドネシア産、インド産がそれぞれ33%、63%の減少から、類計も28%の減少。さばは11%の増。たこは3%増。ぎんだらは8%増となった。平均価格では、まぐろ類は、めばちが1.5割安、ほんまぐろが1.6割安、印度まぐろが1.2割安となり、類計では0.8割安となった。いか類は、するめ (国内) が倍増にもかかわらず、0.3割安にとどまった。類計では1.3割安となった。さけ・ます類は、しろさけが7.6割高、べにさけが5.0割高となり、類計でも2.1割高となった。えび類は0.7割安。さばは1.3割安、ぎんだらは2.4割安となった。

☆加工品

取扱数量	23,651 t (対前年比 100.0%)
平均価格	751円 ( " 9円安)

取扱数量では、塩蔵品類は、来遊の遅れが目立った塩あきさけが44%減、塩べにさけが14%減となり、代わって引き合いの強まった塩しろさけが15%増、塩ぎんさけが18%増となった。類計では13%減。塩干品類は、開干さんまが21%増、丸干いわしが13%減となり、類計では10%減となった。煮干製品類は、煮干いわしが12%減、類計では3%減となった。練製品類は5%増。湯煮品類は5%の減となった。平均価格では、塩蔵品類は、塩あきさけ、べにさけ、ぎんさけがそれぞれ1.2割、4.3割、0.9割高と値を上げた。類計では1.3割高となった。塩干製品類は、0.4割高となった。煮干製品類は、煮干いわしが2.0割安、類計では0.3割安となった。湯煮品類は、ほぼ前年並。練製品類は0.6割安となった。

- 11月 -

☆鮮魚

取扱数量	16,298 t (対前年比 92.0%)
平均価格	965円 ( " 57円高)

取扱数量では、まぐろ類は、めばちの輸入物が7%増、まぐろの国内物が13%増、輸入物が15%減、めじが19%減となった。まあじは、九州・紀州の中型を主体に入荷し

3%増。さばは、三陸物主体に8%増となった。まいわしは、前半は山陰物、中旬以降は近海物主体に入荷したが27%減となった。するめいかは、青森、北海道物主体だが、シケの影響で46%減と、11月としては過去5年で最低の入荷となった。はまちは、54%増。かつおは、三陸物主体に20%の減。さんまは、三陸・北海道物主体に46%減。またい (養殖)は58%増となった。平均価格では、まぐろ類は、まぐろの輸入物が2.2割高、めじが1.6割高となり、めばちの国内物が1.1割、輸入物が1.3割、まぐろの国内物が1.0割それぞれ値を下げた。まあじは0.4割安。入荷量の減少したまいわしが3.2割、するめいかは6.8割、さんまが2.2倍と大幅に値を上げた。かつおは0.8割高。たら類は2.5割高。はまちは、2.2割安。さばは、1.1割安。またい (養殖)は、3.0割値を下げた。

☆活魚

取扱数量	1,326 t (対前年比 117.7%)
平均価格	1,432円 ( " 268円安)

取扱数量では、かんばちが43%増、またいが22%増、あなごが7%増、ひらめが5%減少したが、全体では18%増となった。平均価格では、かれいが1.3割高かったほかは総じて安く、またいが2.7割、はまちが2.0割、かんばちが1.4割、たこが2.9割、あなごが0.8割値を下げ、全体でも1.6割安となった。

☆貝類

取扱数量	5,088 t (対前年比 97.3%)
平均価格	969円 ( " 52円高)

<生鮮貝類>

取扱数量では、はまぐりが15%増、むきかきが10%増、ささえが8%増となったが、あか貝が27%減、はたて貝が8%減、あさりが6%減となり、類計では3%減となった。平均価格では、あか貝が3.4割、むきかきが1.3割、あさりが0.7割それぞれ値を上げ、類計でも0.7割高となった。

<冷凍貝類>

取扱数量は、2%の減。平均価格は、前年並。

☆冷凍魚

取扱数量	14,754 t (対前年比 107.5%)
平均価格	1,086円 ( " 120円安)

取扱数量では、まぐろ類は、供給の多かったほんまぐろと印度まぐろが、29%、16%とそれぞれ増加。反面、きわだは他のまぐろ類の潤沢な出回りのあおりで需要が一層落ち込み、40%減となった。いか類は、するめ (国内) が引き続き生鮮物の代替としての需要増から2.9倍と大幅に増加した。類計でも34%増となった。さけ・ます類は、北米産の供給の少ないべにさけが41%減と大きく落ち込んだが、年末商戦をにらんだ代替需要により、しろさけが12%、ぎんさけが48%とそれぞれ増加した。類計でも10%増となった。えび類は、あかえびが27%減など荷動きが低調で10%減。たこは12%増。さばは85%の大幅な増加。ぎんだらは27%増。平均価格では、まぐろ類は、入荷が増加したこと

などから、めばちが0.9割安、ほんまぐろが1.7割安、印度まぐろが1.4割安となり、類計でも0.6割安となった。いか類は、するめ(国内)が2.0割高、類計では2.0割安となった。さけ・ます類は、べにさけが3.5割高、しろさけが2.0割高となり、類計でも1.1割高となった。えび類は、0.8割安。入荷増のぎんだらが2.5割安、さばが3.2割安。

☆加工品	取扱数量 23,062 t (対前年比 104.7%)
	平均価格 795円 ( " 35円安)

取扱数量では、塩蔵品類は、引き合いの強い塩しろさけが96%増となり、供給の少ない塩べにさけは38%の減となった。いくらが16%減。塩かずのこが43%増。類計では4%増となった。塩干品類は、開干あじが7%減、丸干いわしが17%減となり、類計ではほぼ前年並。煮干製品類は、煮干いわしが38%増、しらす干が13%減となり、類計ではほぼ前年並となった。練製品類が5%増となった。平均価格では、塩蔵品類は、塩べにさけが4.2割高、塩あきさけが1.3割高、塩ぎんさけが1.1割高、いくらが0.6割高となったが、塩しろさけが0.9割安、塩かずのこが1.5割安となり、類計では0.3割安となった。塩干品類は、開干さんまが0.7割高、丸干いわしが0.7割安、類計ではほぼ前年並となった。煮干製品類は、0.8割安となった。練製品類は0.6割安。湯煮品類は、0.4割高となった。

- 12月 -

☆鮮魚	取扱数量 17,007 t (対前年比 97.1%)
	平均価格 1,182円 ( " 31円安)

取扱数量では、まぐろ類は、きわだの国内物が47%増、輸入物が41%減、めばちの輸入物は15%減、国内物は13%増となった。まあじは、山陰・九州の中型主体に2%減。さばは、九州物主体の入荷で6%増。まいわしは、近海物を主体に23%減。するめいかは、上旬は青森・北海道物、中旬以降は九州・山陰物を中心に入荷したが、シケの影響を受け、32%減となった。はまちは、入荷の最盛期を迎え16%増。またい(養殖)は36%増。たら類は12%の減となった。平均価格では、まぐろ類は、めばちの輸入物が0.9割安、きわだの国内物が0.8割高、輸入物が0.7割高となった。まあじはほぼ前年並。さばは1.1割安。まいわしは1.3割高。入荷の少ないするめいかは3.8割高。はまちは1.6割安。またい(養殖)は、3.0割安となった。

☆活魚	取扱数量 1,714 t (対前年比 112.1%)
	平均価格 1,438円 ( " 258円安)

取扱数量では、かんばちが33%増、またいが12%増となった。平均価格では、あなごが1.4割安、かんばちが1.5割安、はまちが1.7割安、またいが1.8割安と、全般的に安値となった。

☆貝類	取扱数量 5,908 t (対前年比 97.8%)
	平均価格 978円 ( " 50円安)

<生鮮貝類>

取扱数量では、むきかきが13%増、さざえが16%増となり、あざりが11%減、あおやぎが42%減、とり貝が76%減少し、類計では前年並となった。平均価格では、とり貝が3.3倍に値を上げ、あおやぎが2.2割高、むきかきが1.2割安、はたて貝が1.1割安となった。

<冷凍貝類>

取扱数量は、8%減。平均価格は、0.3割安。

☆冷凍魚	取扱数量 18,540 t (対前年比 104.4%)
	平均価格 1,243円 ( " 81円安)

取扱数量では、まぐろ類は、ほんまぐろが25%増、印度まぐろが12%増となったが、主力のめばちが10%減少し、きわだも13%減と引き続き少ない。類計では、4%の減となった。いか類は、するめ(国内)が18%減で、3カ月ぶりの前年割れ。年末需要で幾分動いたもんこういかは13%増となったが、類計では2%減となった。さけ・ます類は、

2. 主要品目の取扱高

(1) まぐろ類

生鮮物は、取扱数量が13%減となり、平均価格では92円高となった。品目別に見ると、取扱数量では、まぐろの国内物が22%減、輸入物が1%減、きわだの国内物が17%減、輸入物が3%増、めばちの国内物が11%減、輸入物が6%増、印度まぐろが14%減となった。昨年豊漁だっためじは、47%減とほぼ半減した。平均価格では、まぐろの国内物が82円高、輸入物が102円安、きわだの国内物が70円高、輸入物が108円安、めばちの国内物が100円高、輸入物が43円安、めじが232円高となった。

冷まぐろ類は、取扱数量が8%増となり、全体に単価安で平均価格は215円安となった。品目別にみると、取扱数量では、ほんまぐろが42%増、きわだが36%減、めばちが8%、印度まぐろが10%増となった。平均価格では、ほんまぐろが746円安、きわだが92円安、めばちが204円安、印度まぐろが356円安となった。

(2) かつお

取扱数量は、北上が始まるころから順調な入荷が続いたが、豊漁だった前年に比べ、5月、6月は減少したものの、夏以降も豊富に入荷があり、年間では5%の減少となった。平均価格は、15円高の538円となった。

(3) はまち(養殖)

取扱数量は、入荷の少なかった前年をほぼ毎月上回る入荷となり、年間では22%の増加となった。平均価格は、入荷増から213円安の922円となった。

(4) まあじ

取扱数量は、3月が下回ったが、全般的に前年よりやや増加傾向で、年間では3%増となった。平均価格は、14円安の520円となった。

(5) まいわし

取扱数量は、前半が昨年を上回ったが、後半が下回り、年間では、6%の減少となった。平均価格は、68円高の461円となった。

(6) するめいか

生鮮物は、豊漁だった昨年、一昨年を大きく下回り、過去5年で最低の入荷量となった。取扱数量は、28%の減少となり、平均価格は、153円高の566円となった。

冷凍物は、不漁の生鮮物の代替として、国内物で取扱数量は、34%増加し、平均価格は、53円安の 263円となった。

#### (7) さば

生鮮物は、毎月順調な入荷があり9年ぶりに1万tを上回った。このため取扱数量は、21%増加し、平均価格は、73円安の 492円となった。

冷さは、取扱数量が3%増加し、平均価格が37円安の 416円となった。

#### (8) さんま

取扱数量は、7月までは前年を上回る扱いが続いたが、新物の漁が始まる8月以降、不漁の影響から前年を大きく下回り、年間では6%減となった。平均価格は、89円高の 507円となった。

#### (9) さけ・ます類

生鮮物は、取扱数量が1%減となり、平均価格では45円高の 816円となった。品目別に見ると、しろさけは取扱数量が22%減となり、平均価格は90円高の 518円となった。ぎんさけは取扱数量が10%増となり、平均価格が21円安の 729円となった。

冷凍物は、取扱数量が11%増となり、平均価格が33円高の 673円となった。

#### (10) えび類

生鮮物は、取扱数量が3%減となり、平均価格は121円安の 2,997円となった。品目別に見ると、あかえびは取扱数量が5%減となり、平均価格は44円安の 2,100円となった。その他のえびは取扱数量が14%増となり、平均価格は348円安の 2,549円となった。

冷凍物は、取扱数量が12%減となり、平均価格は100円高の 1,852円となった。品目別に見ると冷えび(インド)は取扱数量が10%減となり、平均価格が205円高の 2,155円となった。また、冷えび(インドネシア)も取扱数量が21%減となり、平均価格は90円高の 1,922円となった。

#### (11) 加工品

全体的な取扱数量としてはほぼ横ばいで、平均価格は24円安の 765円となった。

塩蔵品類では、取扱数量が4%減となり、平均価格が18円高の 1,340円となった。品目別では、不漁の塩あきさけの取扱数量が31%減となり、平均価格が1円高の 387円となった。塩しろさけは取扱数量が11%増となり、平均価格が156円安の 630円となった。すじこは取扱数量が4%減となり、平均価格が180円安の 1,795円となった。いくら取扱数量が12%減となり、平均価格が749円高の 3,788円となった。

塩干品類では、取扱数量が2%減となり、平均価格は24円安の 542円となった。品目別では、開干あじが取扱数量で7%減となり、平均価格が18円安の 538円となった。開干さんまは取扱数量が9%増となり、平均価格が60円安の 429円となった。

煮干製品類では、取扱数量が3%減となり、平均価格が129円安の 1,234円となった。品目別では、しらす干が取扱数量で3%減となり、平均価格が108円安の 1,560円となった。

焼物製品類では、取扱数量は2%増となり、平均価格は257円安の 1,644円となった。

素干品類では、取扱数量が4%減となり、平均価格が13円安の 1,146円となった。品目別では、干すめ(国内)が取扱数量で14%減となり、平均価格が32円高の 1,267円となった。

練製品類では、取扱数量は2%減となり、平均価格は

7円安の 536円となった。品目別では、かまぼこが取扱数量で6%減となり、平均価格は26円高の 738円となった。

湯煮品類では、取扱数量が6%減となり、平均価格が27円高の 1,143円となった。品目別では、煮たこが取扱数量で2%増となり、平均価格は82円安の 1,304円となった。

### 3. 市場別取扱高

#### (1) 築地市場

総取扱数量は、622,533tで前年比100%と前年並(1,575t増)、総取扱金額は、582,656百万円で前年比96%と減少(23,257百万円減)した。類別では、取扱数量は、鮮魚が1%(1,610t)減少し156,031t、活魚が10%(1,289t)増加し13,821t、貝類が4%(1,767t)減少し46,776t、冷凍魚が3%(4,212t)増加し161,199t、淡水魚が11%(322t)減少し2,587t、海藻類が4%(283t)増加し6,943t、加工品が前年並(510t減)で235,176tとなった。取扱金額は、鮮魚が3%(4,801百万円)減少し157,174百万円、活魚が7%(1,548百万円)減少し21,129百万円、貝類が5%(2,453百万円)減少し42,759百万円、冷凍魚が4%(7,854百万円)減少し177,362百万円、淡水魚が11%(459百万円)減少し3,789百万円、海藻類が11%(295百万円)増加し2,961百万円、加工品が4%(6,437百万円)減少し177,483百万円となった。

#### (2) 足立市場

総取扱数量は、52,605tで前年比98%と減少(1,282t減)し、総取扱金額は、45,030百万円で、前年比95%と減少(2,586百万円減)した。類別では、取扱数量は、鮮魚が4%(571t)減少し14,465t、活魚が6%(37t)増加し621t、貝類が前年並(16t増)で5,365t、冷凍魚が3%(326t)増加し11,387t、淡水魚が16%(46t)減少し237t、海藻類が2%(16t)減少し706t、加工品が5%(1,027t)減少し19,824tとなった。取扱金額は、鮮魚が1%(173百万円)減少し12,098百万円、活魚が7%(63百万円)減少し902百万円、貝類が3%(106百万円)減少し4085百万円、冷凍魚が8%(959百万円)減少し11,012百万円、淡水魚が14%(53百万円)減少し310百万円、海藻類が2%(6百万円)増加し315百万円、加工品が7%(1,238百万円)減少し16,307百万円となった。

#### (3) 大田市場

総取扱数量は、40,242tで前年比100%と前年並(163t減)、総取扱金額は、37,263百万円で前年比100%と前年並(117百万円増)となった。類別には、取扱数量は、鮮魚が7%(1,414t)減少し18,130t、活魚が7%(93t)増加し1,326t、貝類が16%(347t)増加し2,532t、冷凍魚が4%(372t)増加し9,094t、淡水魚が17%(46t)減少し231t、海藻類が7%(26t)増加し412t、加工品が6%(460t)増加し8,517tとなった。取扱金額は、鮮魚が4%(637百万円)減少し14,650百万円、活魚が8%(158百万円)減少し1,765百万円、貝類が7%(140百万円)増加し2,220百万円、冷凍魚が2%(185百万円)増加し10,116百万円、淡水魚が前年並(1百万円増)で339百万円、海藻類が56%(102百万円)増加し284百万円、加工品が7%(486百万円)増加し7,891百万円となった。

### 4. 卸売業者別取扱高

#### (1) 築地市場

##### ① 大都魚類(株)

総取扱数量は、124,635tで、前年比100%と前年並、総取扱金額は、119,513百万円で、前年比97%と減少した。

類別には、取扱数量では、鮮魚が1%(184t)増加、活魚が15%(458t)増加、貝類が1%(202t)減少、冷凍魚が1%(350t)増加、加工品が前年並(104t減)となった。取扱金額では、鮮魚が1%(339百万円)増加、

活魚が1% (72百万円) 減少、貝類が3% (319百万円) 減少、冷凍魚が5% (2,405百万円) 減少、加工品が5% (1,133百万円) 減少となった。

② 中央魚類(株)

総取扱数量は、130,293 tで、前年比103%と増加し、総取扱金額は、141,977百万円で、前年比99%と減少したものの、4年連続で数量・金額ともにトップとなった。

類別には、取扱数量では、鮮魚が4% (1,555 t) 増加、活魚が17% (542 t) 増加、貝類が7% (700 t) 減少、冷凍魚が4% (1,822 t) 増加、加工品が3% (773 t) 増加となった。取扱金額では、鮮魚が1% (354百万円) 減少、活魚が2% (136百万円) 減少、貝類が10% (1,028百万円) 減少、冷凍魚が1% (727百万円) 減少、加工品が2% (521百万円) 増加となった。

③ 東都水産(株)

総取扱数量は、116,016 tで、前年比100%と前年並、総取扱金額は、121,611百万円で、前年比94%と減少した。

類別には、取扱数量では、鮮魚が4% (1,554 t) 減少、活魚が10% (238 t) 増加、貝類が4% (274 t) 増加、冷凍魚が7% (2,526 t) 増加、加工品が5% (1,962 t) 減少となった。取扱金額では、鮮魚が6% (2,349百万円) 減少、活魚が8% (360百万円) 減少、貝類が3% (268百万円) 減少、冷凍魚が3% (1,269百万円) 減少、加工品が9% (3,149百万円) 減少となった。

④ 築地魚市場(株)

総取扱数量は、119,055 tで、前年比99%と減少し、総取扱金額は、97,246百万円で、前年比94%と減少した。

類別には、取扱数量では、鮮魚が5% (1,553 t) 減少、活魚が3% (117 t) 増加、貝類が3% (215 t) 減少、冷凍魚が6% (1,415 t) 減少、加工品が3% (1,553 t) 増加となった。取扱金額では、鮮魚が6% (1,553百万円) 減少、活魚が13% (884百万円) 減少、貝類が6% (426百万円) 減少、冷凍魚が14% (3,769百万円) 減少、加工品が2% (646百万円) 増加となった。

⑤ 第一水産(株)

総取扱数量は、50,636 tで、前年比99%と減少し、総取扱金額は、46,193百万円で、前年比96%と減少した。

類別には、取扱数量では、鮮魚が1% (243 t) 減少、活魚が20% (66 t) 減少、貝類が10% (925 t) 減少、冷凍魚が12% (931 t) 増加、加工品が2% (249 t) 減少となった。取扱金額では、鮮魚が4% (703百万円) 減少、活魚が25% (96百万円) 減少、貝類が5% (411百万円) 減少、冷凍魚が3% (315百万円) 増加、加工品が6% (789百万円) 減少となった。

⑥ 丸千代田水産(株)

総取扱数量は、67,849 tで、前年比99%と減少し、総取扱金額は、44,074百万円で、前年比95%と減少した。

類別には、取扱数量では、海藻類が15% (261 t) 増加、加工品が1% (951 t) 減少となった。取扱金額では、海藻類が19% (135百万円) 増加、加工品が5% (2,263百万円) 減少となった。

⑦ 総合食品(株)

総取扱数量は、14,050 tで、前年比103%と増加し、総取扱金額は、12,042百万円で、前年比98%と減少した。

類別には、取扱数量では、海藻類が69% (25 t) 増加、加工品が3% (429 t) 増加となった。取扱金額では、海藻類が9% (5百万円) 増加、加工品が2% (271百万円) 減少となった。

(2) 足立市場

① 東京北魚(株)

総取扱数量は、19,749 tで、前年比96%と減少し、総取扱金額は、16,113百万円で、前年比92%と減少した。

類別には、取扱数量では、鮮魚が6% (221 t) 減少、活魚が8% (17 t) 増加、貝類が5% (105 t) 増加、冷凍魚が14% (607 t) 減少、加工品が1% (80 t) 減少となった。取扱金額では、鮮魚が4% (126百万円) 減少、活魚が4% (13百万円) 減少、貝類が1% (21百万円) 減少、冷凍魚が19% (874百万円) 減少、加工品が5% (396百万円) 減少となった。

② 大都魚類(株)千住支社

総取扱数量は、17,476 tで、前年比99%と減少し、総取扱金額は、14,980百万円で、前年比97%と減少した。

類別には、取扱数量では、鮮魚が4% (344 t) 減少、活魚が21% (32 t) 増加、貝類が6% (91 t) 減少、冷凍魚が22% (781 t) 増加、加工品が11% (706 t) 減少となった。取扱金額では、鮮魚が1% (42百万円) 増加、活魚が8% (19百万円) 増加、貝類が6% (84百万円) 減少、冷凍魚が4% (157百万円) 増加、加工品が11% (574百万円) 減少となった。

③ 中央魚類(株)千住支社

総取扱数量は、15,379 tで、前年比98%と減少し、総取扱金額は、13,937百万円で、前年比95%と減少した。

類別には、取扱数量では、鮮魚が2% (133 t) 減少、活魚が5% (11 t) 減少、貝類が前年並(2 t増)、冷凍魚が5% (153 t) 増加、加工品が5% (242 t) 減少となった。取扱金額では、鮮魚が2% (89百万円) 減少、活魚が18% (69百万円) 減少、貝類が前年並(1百万円減)、冷凍魚が7% (244百万円) 減少、加工品が6% (268百万円) 減少となった。

(3) 大田市場

① 東京大田魚市場(株)

総取扱数量は、22,147 tで、前年比102%と増加し、総取扱金額は、21,294百万円で、前年比100%と前年並。

類別には、取扱数量では、鮮魚が3% (283 t) 増加、活魚が28% (72 t) 増加、貝類が1% (11 t) 増加、冷凍魚が2% (84 t) 減少、加工品が前年並(19 t増)となった。取扱金額では、鮮魚が3% (232百万円) 増加、活魚が8% (37百万円) 増加、貝類が3% (39百万円) 減少、冷凍魚が6% (356百万円) 減少、加工品が1% (50百万円) 減少となった。

② 大都魚類(株)大田支社

総取扱数量は、18,095 tで、前年比97%と減少し、総取扱金額が、15,969百万円で、前年比101%と増加した。

類別には、取扱数量では、鮮魚が18% (1,696 t) 減少、活魚が2% (21 t) 増加、貝類が36% (335 t) 増加、冷凍魚が14% (457 t) 増加、加工品が12% (440 t) 増加となった。取扱金額では、鮮魚が14% (869百万円) 減少、活魚が13% (195百万円) 減少、貝類が21% (179百万円) 増加、冷凍魚が14% (542百万円) 増加、加工品が18% (535百万円) 増加となった。

(4) 買付比率

全体の買付比率は、取扱数量では、49.1%と前年を1.3ポイント上回り、取扱金額では、49.9%と前年を1.7ポイント上回った。市場別に見ると、築地市場の買付比率は、取扱数量では、49.2%と前年を1.3ポイント上回り、取扱金額では、49.0%と前年を1.7ポイント上回った。足立市

場の買付比率は、取扱数量では、44.3%と、前年を1.2ポイント上回り、取扱金額では、52.2%と前年を0.9ポイント上回った。大田市場の買付比率は、取扱数量では、53.9%と前年を2.3ポイント上回り、取扱金額では、61.0%と前年を2.7%上回った。

卸売業者別に見ると次の表のとおり。

卸売業者別買付比率

	取扱数量			取扱金額		
	平成10年	平成9年	差	平成10年	平成9年	差
総計	49.1	47.8	1.3	49.9	48.2	1.7
(築地市場)	49.2	47.9	1.3	49.0	47.3	1.7
大都魚類	47.2	46.6	0.6	46.4	44.9	1.5
中央魚類	48.8	47.5	1.3	49.1	47.1	2.0
東都水産	46.1	44.5	1.6	45.5	44.9	0.6
築地魚市場	39.1	38.4	0.7	39.6	36.5	3.1
第一水産	38.2	35.8	2.4	42.8	41.8	1.0
丸千代田水産	84.4	82.3	2.1	88.3	86.9	1.4
総合食品	52.8	49.5	3.3	66.2	63.6	2.6
(足立市場)	44.3	43.1	1.2	52.2	51.3	0.9
東京北魚	42.8	43.0	-0.2	56.7	56.9	-0.2
大都魚類・千住	46.4	44.4	2.0	49.5	48.4	1.1
中央魚類・千住	43.9	42.0	1.9	50.0	47.6	2.4
(大田市場)	53.9	51.6	2.3	61.0	58.3	2.7
東京大田魚市場	55.3	55.6	-0.3	63.3	63.2	0.1
大都魚類・大田	52.1	46.8	5.3	57.9	51.7	6.2

## 5. 出荷地別取扱高

### (1) 総取扱高

都道府県別の取扱数量のベスト10は、1位東京・2位静岡・3位千葉・4位宮城・5位北海道・6位青森・7位三重・8位神奈川・9位愛知・10位福島となり、これは前年とまったく同じ順位となった。取扱金額のベスト10は、1位東京・2位静岡・3位北海道・4位千葉・5位宮城・6位神奈川・7位青森・8位三重・9位愛知・10位大阪となった。前年7位・8位の三重・青森が入れ替わり、福島が10位から下がり、代わりに大阪が10位となった。

### (2) 鮮魚取扱高

取扱数量でみると、1位東京・2位千葉・3位宮城・4位北海道まで前年と変わらず、5位愛媛・6位青森が前年と入れ替わり、7位長崎・8位三重・9位福岡・10位鹿児島となった。長崎、鹿児島が順位を上げ、三重、福岡が順位を下げた。

### (3) 冷凍魚取扱高

取扱数量でみると、1位東京・2位静岡は前年と変わらず、3位宮城・4位青森・5位神奈川と神奈川が順位を下げ、代わりに宮城、青森がそれぞれ順位を上げた。6位千葉は変わらず、7位大阪・8位北海道は前年と入れ替わり、9位愛知・10位岩手も前年と入れ替わった。

### (4) 加工品取扱高

取扱数量でみると、1位東京・2位千葉・3位静岡・4位北海道・5位宮城まで前年と変わらず、6位愛知・7位福島が前年と入れ替わり、以下前年と変わらず、8位茨城・9位神奈川・10位兵庫となった。

表 1 年次別取扱高

(単位：トン・千円・%)

	平成 10 年	平成 9 年	平成 8 年	平成 7 年	平成 6 年	平成 5 年	平成 4 年
総数量 前年比	715,380 100.0	715,250 98.6	725,624 98.3	738,236 96.8	762,829 97.5	782,782 96.9	807,920 97.0
総金額 前年比	664,949,765 96.3	690,674,765 99.1	696,941,817 102.5	680,172,945 95.4	712,946,992 95.3	748,202,651 92.9	804,962,014 97.4

表 2-1 年次別魚種別取扱数量

(単位：トン・%)

年次 魚種	平成 10 年		平成 9 年		平成 8 年		平成 7 年		平成 6 年		前年比					10年 / 2年
	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	10年	9年	8年	7年	6年	
総数	715,380	100.0	715,250	100.0	725,624	100.0	738,236	100.0	762,829	100.0	100.0	98.6	98.3	96.8	97.5	84
鮮魚	188,626	26.4	192,221	26.9	183,138	25.2	191,772	26.0	184,057	24.1	98.1	105.0	95.5	104.2	98.8	109
活魚	15,767	2.2	14,349	2.0	13,995	1.9	14,650	2.0	13,902	1.8	109.9	102.5	95.5	105.4	102.1	125
貝類	54,674	7.6	56,077	7.8	57,631	7.9	56,149	7.6	56,352	7.4	97.5	97.3	102.6	99.6	95.7	89
冷凍魚	181,681	25.4	176,770	24.7	186,010	25.6	191,581	26.0	214,511	28.1	102.8	95.0	97.1	89.3	94.6	64
淡水魚	3,055	0.4	3,469	0.5	4,185	0.6	4,305	0.6	3,812	0.5	88.1	82.9	97.2	112.9	101.7	72
海藻類	8,060	1.1	7,768	1.1	7,761	1.1	7,599	1.0	7,733	1.0	103.8	100.1	102.1	98.3	101.1	104
加工品	263,518	36.8	264,595	37.0	272,904	37.6	272,181	36.9	282,461	37.0	99.6	97.0	100.3	96.4	98.8	87

表 2-2 年次別魚種別取扱金額

(単位：百万円・%)

年次 魚種	平成 10 年		平成 9 年		平成 8 年		平成 7 年		平成 6 年		前年比					10年 / 2年
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	10年	9年	8年	7年	6年	
総数	664,950	100.0	690,675	100.0	696,942	100.0	680,173	100.0	712,947	100.0	96.3	99.1	102.5	95.4	95.3	79
鮮魚	183,923	27.7	189,533	27.4	187,659	26.9	185,410	27.3	186,566	26.2	97.0	101.0	101.2	99.4	97.1	96
活魚	23,796	3.6	25,564	3.7	25,190	3.6	24,161	3.6	24,626	3.5	93.1	101.5	104.3	98.1	95.9	89
貝類	49,063	7.4	51,482	7.5	51,848	7.4	52,141	7.7	54,362	7.6	95.3	99.3	99.4	95.9	96.8	78
冷凍魚	198,489	29.9	207,118	30.0	208,194	29.9	196,972	29.0	219,061	30.7	95.8	99.5	105.7	89.9	95.6	65
淡水魚	4,438	0.7	4,950	0.7	5,386	0.8	5,455	0.8	5,343	0.7	89.7	91.9	98.7	102.1	104.3	79
海藻類	3,560	0.5	3,157	0.5	3,073	0.4	2,986	0.4	3,025	0.4	112.8	102.7	102.9	98.7	93.9	113
加工品	201,681	30.3	208,871	30.2	215,593	30.9	213,047	31.3	219,964	30.9	96.6	96.9	101.2	96.9	92.9	82

表 2-3 年次別魚種別平均価格

(単位：キロ当たり円・%)

年次 魚種	平成 10 年		平成 9 年		平成 8 年		平成 7 年		平成 6 年		対平成 2 年指数				
	価格	前年比	価格	前年比	価格	前年比	価格	前年比	価格	前年比	10年	9年	8年	7年	6年
総数	930	96.3	966	100.6	960	104.2	921	98.5	935	97.8	93	97	96	92	94
鮮魚	975	98.9	986	96.2	1,025	106.0	967	95.4	1,014	98.3	88	89	92	87	91
活魚	1,509	84.7	1,782	99.0	1,800	109.2	1,649	93.1	1,771	94.0	71	84	85	78	84
貝類	897	97.7	918	102.0	900	96.9	929	96.3	965	101.3	88	90	88	91	94
冷凍魚	1,093	93.3	1,172	104.7	1,119	108.9	1,028	100.7	1,021	101.0	102	109	104	96	95
淡水魚	1,453	101.8	1,427	110.9	1,287	101.6	1,267	90.4	1,402	102.5	110	108	98	96	106
海藻類	442	108.9	406	102.5	396	100.8	393	100.5	391	92.9	109	100	98	97	97
加工品	765	97.0	789	99.9	790	100.9	783	100.5	779	94.1	94	97	97	96	95

表 3 — 1 市場別・年次別取扱数量

(単位：トン・円)

市場	年次 区分	平成 10 年		平成 9 年		平成 8 年		平成 7 年		平成 6 年	
		数量 前年比	構成比	数量 前年比	構成比	数量 前年比	構成比	数量 前年比	構成比	数量 前年比	構成比
総数	数量 前年比	715,380 100.0	100.0	715,250 98.6	100.0	725,624 98.3	100.0	738,236 96.8	100.0	762,829 97.5	100.0
築地	数量 前年比	622,533 100.3	87.0	620,958 98.8	86.8	628,567 98.2	86.6	640,292 96.1	86.7	666,076 97.5	87.3
足立	数量 前年比	52,605 97.6	7.4	53,887 94.1	7.5	57,272 98.0	7.9	58,456 100.8	7.9	57,980 93.7	7.6
大田	数量 前年比	40,242 99.6	5.6	40,405 101.6	5.6	39,786 100.8	5.5	39,488 101.8	5.3	38,773 102.8	5.1

表 3 — 2 市場別・年次別取扱金額

(単位：百万円・%)

市場	年次 区分	平成 10 年		平成 9 年		平成 8 年		平成 7 年		平成 6 年	
		金額 前年比	構成比	金額 前年比	構成比	金額 前年比	構成比	金額 前年比	構成比	金額 前年比	構成比
総数	金額 前年比	664,950 96.3	100.0	690,675 99.1	100.0	696,942 102.5	100.0	680,173 95.4	100.0	712,947 95.3	100.0
築地	金額 前年比	582,656 96.2	87.6	605,913 99.3	87.7	610,378 102.4	87.6	596,193 95.2	87.7	626,411 95.4	87.9
足立	金額 前年比	45,030 94.6	6.8	47,616 95.7	6.9	49,747 101.9	7.1	48,835 96.6	7.2	50,571 90.8	7.1
大田	金額 前年比	37,263 100.3	5.6	37,146 100.9	5.4	36,817 104.8	5.3	35,145 97.7	5.2	35,965 101.0	5.0